

新年度のあいさつ （学校だよりから抜粋）

コロナウイルスにより、長期間の休みが続いています。

今の時期だからこそ、子どもたち、保護者のみなさま、地域のみなさまとの「つながり」を大切に、この難局を乗り越えていきたいと考えています。

「学校として何ができるのか」の問いに対して、教職員一丸となって答えを見つけ、一步一步着実に進めていきます。

そこで考えたことのひとつが、「情報発信」としてのホームページの活用です。実は、私自身、あまりパソコンの操作は、得意分野ではありませんが、ピンチをチャンスに、できることをコツコツやってみようと思いを決意をしたところです。

また、本校教職員も、この機会にホームページを使って、いろいろ情報を発信していきます。楽しみにしていただけたいと思います。

まずは、学校だよりでお伝えしました内容をホームページにアップしてみます。「まずは、やってみることから」私自身が担任をしていた頃、クラスの子どもたちに伝えてきた一言でもあります。



保護者のみなさま。はじめまして。４月１日より島田小学校の校長として着任いたしました竹本和哉と申します。４月７日の入学式は、直前まで、実施できるかどうか不安な日々を過ごしました。規模を縮小した形となりましたが、無事入学式を行うことができました。保護者のみなさまのご協力のおかげです。ありがとうございました。しかし、８日の始業式以降は、再び学校が休校となったため、２年生以上の子どもたちには、まだ会うことができていません。非常に残念な思いでいっぱいです。このような形ではありますが、校長としてメッセージをお伝えしたく書かせていただきます。

今、子どもたちは、どのように過ごしているのでしょうか？勉強？遊び？ゲーム？家のお手伝い？今まで経験したことのない時間をどのように使っているのかとても気になります。学校に来ていたら、先生たちと楽しく勉強したり、友だちといっしょに運動場で走り回ったり、子どもたちの元気いっぱいな声が響いていたのだろうと、職員室から運動場を眺めるたびに思います。今は、５月１１日の学校再開に向けて、教職員とともに準備をしているところです。

休校が始まった３月はじめと比べても状況は、よくなっていません。毎日テレビや新聞で聞く話に、明るさが見える気配が感じられません。学校に向かうまでの街並みも、ずいぶん様変わりしてしまいました。「新型コロナウイルス感染防止のためお店をしめています。」の紙がいたるところに貼られるような状態です。この光景を見た時に、ふと思い出したことがありました。



私の生まれ育った神戸のことです。平成７年１月１７日午前５時４６分、大地震が発生しました。阪神淡路大震災です。たった数十秒間の揺れで、神戸の街並みが破壊されました。発生当時、誰もが不安をおぼえ、絶望の日々を暮らしていたことを今でも鮮明に記憶しています。あれから月日がたち、今の神戸は震災の面影もほとんどなくなるほど復興をとげてきました。当時感じたことは、人間ひとりひとりの存在は小さく、ちっぽけな力かもしれませんが、しかし、みんなで力を合わせれば前に進むことができる、乗り越えることができるということを肌で感じました。今の自分の人生の中でも大きな出来事のひとつとなりました。

今、日本だけではなく全世界の人々が新型コロナウイルスという見えない敵と戦っています。人々の力を結集すれば、新型コロナウイルスに打ち勝つことができると信じています。そのために今何をすべきかを、ひとりひとりが考えなければならないと思います。一人の教師として何ができるか、学校として何ができるか。未知のことだらけではありますが、島田小学校の教職員とともに、できることをひとつひとつ見つけ着実に一步一步前に進めていきたいと思っています。

まだまだ、先が見えない状況ではありますが、子どもたち、保護者のみなさま、地域のみなさまとともにこの難局を乗り越えていきたいと考えています。

どうぞ、これからも学校の教育活動に、ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

令和２年（２０２０年）４月２８日
豊中市立島田小学校
校長 竹本 和哉